

◆高山れおな選

妄想も尽きてどうする熱帯夜

(岩手県金ケ崎町) 明神 二峰

終戦日エンドロールが終わらない

(呉市) 水野 詩朴

石垣のように字を積み健次の忌

(東京都新宿区) 各務 雅憲

叫ぶごと地に百合咲いて地震国

(和歌山県由良町) 藤田 昌幸

夏^{さか}旺^{さか}んマティス屋^やの絵が多し

(西海市) 村井 伸子

かき氷ぐらぐらする歯も自由だね

(越谷市) 宮津 亜紀

大花火ありしところに星^あ生^ある

(長野市) 縣 展子

八月や子の乱射する電子音

(日立市) 川越 文鳥

みちのくの祭を巡るバスツアー

(相馬市) 根岸 浩一

冷房の切れぬ世の中始まりぬ

(福岡市) 釋 蛸硯

【評】明神さん。妄想が尽きたならそれは悟りの境地なのだが、この場合…。水野さん。映画ならぬ戦争なればこそ。各務さん。中上健次も長生きすればパソコンで書いたのだろうけれど。写真で見た原稿の字は確かに石積みのようにぎっしり。

◆小林 貴子 選

ライオンも熱中症になる日本

(町田市) 岩見 陸二

炎天に水も電気もなき命

(福岡市) 藤掛 博子

鍬^{くわ}を振るだけの八月十五日

(郡山市) 寺田 秀雄

ちよつと肩凝れるフレンチ花水

(伊万里市) 萩原 豊彦

午後眩^まし肩より払ふ天道虫

(船橋市) 斉木 直哉

遠くから聞こえてこそその盆太鼓

(仙台市) 武田 道直

八月やなぜか昭和が浮かびくる

(鎌倉市) 江刺家 徹

主天業のけふは休日^{うたが}鰻^{うなぎ}食ふ

(茨城県美浦村) 杉山 満

炎帝に投石したき面憎さ

(長崎市) 下道 信雄

酷暑などと名を付けるから大威張り

(高萩市) 小林 紀彦

【評】一句目、サバンナのライオンが日本に来て熱中症で命を落とすとは痛々しい。二句目、熊本地震の地を思つての作。しっかり復興する日の来ることを願う。三句目、こつこつ農作業を続け、終戦への思いは深まる。四句目、分かる分かる。